

令和3年12月2日

伊丹市議会議長

加 藤 光 博 様

請 願 者

住 所 神戸市

氏 名 子どもと教育を守る伊丹連絡会

藤木 貴子

外 4, 0 9 4 人

紹 介 議 員 日本共産党伊丹市議会議員団 上原 秀樹

【中学校1年生の、当面35人学級の実現】を県に要望することを求める請願書

請願趣旨

国が41年ぶりに定数法改正を決定し、35人学級の実現に向けて動き始めました。しかし小学校のすべての学年が35人学級になるまでに5年かかり、中学校の定数改正は手つかずです。新型コロナウイルス感染症、自然災害といった危機的状況が多発し、急激なIT化に対応できる力を身につけることが急がれる社会情勢の中で、一人一人の子どもを大切にしたい学校を作るために、すべての学年で少人数学級をできるだけ早く実施する必要があります。特に、思春期の入り口として大切な中学校1年生を少人数学級にする重要性は、子どもに関わる誰もが認めることであり、中学校1年生を県独自の予算で35人学級にしていないのは、大阪府・広島県・兵庫県の3県のみです。

今年度、小学校2年生が35人学級なのは、県がその費用を負担しているからですが、来年度は国が負担するので、その分の予算を中学校1年生の35人学級実現に回すことができるはずです。充分実現可能な【中学校1年生の、35人学級実現】を、伊丹市議会から県に強く要望してくださるよう請願します。

(請願事項)

1、【中学校1年生の、当面35人学級の実現】を県に要望すること。